

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591000011		
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会		
事業所名	グループホームみかん（さくら棟）		
所在地	〒949-0302 新潟県十日町市仁田2311-4		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成24年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

十日町市の中心地より10km程離れた静かな山と緑に恵まれたところです。開設され6年目に入り地域の中で安心し、張り合いのある生活ができる様に、買い物や散歩に出かけたり、地域のお祭りに参加しています。日常的に地域に出かける機会を多く持ち続けています。また、お客様の希望や想い・夢が叶う生活になる様に、職員の業務分担をせず一人ひとりに寄り添った関わりを持っています。平成20年よりくもん学習療法を導入し希望者へ継続して実施しています。グループホームみかんの理念でもあります『【み】んなで【か】ぞくのように あ【ん】しんして暮らせます』をもっととし日々お客様と家族のように関わりを持ちながら日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業所とを併設する複合施設の中にあり、旧川西町の商店街に近い住宅街に位置している。開設当初から、地域との関わりに積極的に努めており、現在では、運営推進会議に一般住民にも参加してもらったり、自治会の寄り合いに職員が参加するなど、地域と密接な関係が築かれている。

事業所で「認知症と家族の会」の「集い」を定期的に開催して在宅介護をする家族が集まる機会を設けたり、公文の学習療法を取り入れるなど、認知症介護の専門機関としての取り組みを積極的に行いつつ地域へも貢献しており、複合施設が開設されてから地域が活性化されたとの声も住民から聞かれている。

事業所の名前を用いた理念として、18人の利用者の【み】んなが、職員と【か】ぞくのように、地域の中であ【ん】しんして、その人らしく暮らし続けることへの支援を目指している。職員体制においても、業務分担はあらかじめ決めず、その日の勤務者で話し合って役割を決め、職員がユニットに関わりなく利用者に接することで、18人の利用者を職員全員で支えている。少しでも利用者に変化が見られるとミーティングを行って情報を共有するなど、職員間のコミュニケーションは密であり、その結果、常に「利用者にとってどうなのか」を考える、良いチームワークが機能している。

「あたたかいホームでありたい」との思いで作りに上げた理念の実践のために、毎年職員全員で年間目標を立て、毎月の職員会議と年度末に振り返りを行い、利用者の思いや夢を叶えようと日々取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には管理者が、オリエンテーションで理念の思いや意味を職員へ伝えていきます。職員室に絶えず掲示しており、理念の共有し実践。また、毎年部署目標を立て達成に向けて努力をしています。	法人理念をもとに、あたたかいホームでありたいと、全職員で考えて作った理念である。理念を具体化するために、職員行動指針と年間目標を掲げ、行動指針は毎朝の朝礼で唱和して、日常的に意識付けを行っている。年間目標は毎年全員で考えて立て、毎月の職員会議と年度末に振り返りを行って理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店街にお客様と共に買い物へ出かけます。また、当事業所の納涼祭や地域の秋祭りへ参加し地域の方から「また来年もお願ひします。」とおっしゃっていただけている。	地元商店の利用、散歩の時の挨拶、畑の借用、地域行事への参加など、地域の方々との交流はごく自然に行われている。自治会の懇親会や会合、秋の大祭の反省会等へも地域の一員として出席している。また、地域の方が事業所裏手の道路の落ち葉掃除や除雪などに積極的に関わってくれたり、近所で発生した小火に職員が駆けつけるなど、双方向的な協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生・中学生・高校生の体験実習・ボランティアの受け入れを積極的に行なっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を立て奇数月に実施しております。ホームの状況・事故報告・苦情などを報告し意見交換を行なっております。また、火災防火訓練にも参加し助言を頂いております。	会議には、地域の区長のほか、隣町の区長や一般住民も参加しており、事業所の報告事項に対して質疑応答がなされ、広い視野からの活発な意見交換が行われている。総合防災訓練に参加した委員から出されたサイレンの設置場所についての具体的提案など、実際に事業所運営の改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて参加していただき情報交換を行なっております。制度上の疑問点など伺いながら取り組んでいます。	運営推進会議には市役所担当者も出席しており、事業所の現状を把握してもらっている。認知症高齢者の家族による集いについては協働で住民に参加を働きかけるなど、地域の福祉や認知症ケアの向上にむけて協力している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行われております。また、日々ミーティング等でも身体拘束や虐待に値しないか振り返りながら個別ケアに取り組んでおります。	法人が掲げる「虐待防止三か条」をもとに事業所独自の「禁句三か条」を作成し、掲示するとともに朝礼で唱和して意識付けを行っている。高齢者虐待・身体拘束廃止の内部研修を行って理解を深めている。一人で外出しようとする利用者に対しては、そのニーズを汲み取って根気よく対応するなどのケアを実践している。また、家族と相談の上で薬による抑制をしないケアにも前向きに取り組み、その人らしさを取り戻せた喜びを共に分かち合ったケースもある。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行われております。また、日々ミーティング等でも身体拘束や虐待に値しないか振り返りながら個別ケアに取り組んでおります。	職員は虐待防止について研修で理解を深めており、日々利用者の様子に注意を払って早期発見に努めている。管理者等は、職員の不適切な言葉かけがあった場合は、「利用者にとってその対応はどうなのか」という立場でその都度指導をしている。職員の表情等にも気をつけて声をかけたり面接をするなど、職員がストレスをためないように配慮し、職員間で何でも意見を言えるよう「意見ボックス」を設置するなどの工夫もしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月まで日常生活自立支援事業を活用されていたお客様が1名いらっしゃいましたが、特養へ入所されました。現在は権利擁護に関する制度を活用されている方はおられません。実践をとおして学ぶ事ができておりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の項目に沿って説明を行なっております。毎年顧客満足度アンケートを実施しておりますが、看取りの詳細が契約書になく不安をもたれた方がおられました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の担当受け持ち職員がお客様やご家族様の声を聞いて実現できるように努力しています。また、年に1度顧客満足度アンケートを実施し、ご意見を頂戴し改善につなげております。	年1回顧客満足度調査を実施しており、掃除の方法やトイレの臭いに関する意見など、利用者や家族から寄せられた意見には丁寧に回答するとともに、改善につなげている。また、職員が利用者や家族の意見をきちんと聞き取れるよう、法人内で苦情対応トレーニングの研修を実施し、サービスの向上に役立てている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の部署会議・職員会議等で、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、年1回危険箇所について職員から意見を聞いて改善につなげています。	職員会議や日々のミーティング時のほか、日常的にも職員間の意見交換の機会が多い。また、「意見ボックス」を設置して直接言いにくい意見や提案なども吸い上げており、日々多くのアイデアが挙がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、目標管理を軸に、自分の立てた目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように職員に指導しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体のキャリアパスやスキルアップするための研修が年間計画であり学ぶ機会を得ています。また、法人外の研修も参加しており日々学んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のGH連絡会があり、定期的に交流を持っています。サービス向上を目指して現状の報告や意見交換、ケアプラン作成勉強会などを行なっています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様やご家族の思いを受け止め、安心していただけるように、利用前にご本人にお会いして直接お話をお聞きのしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ってお話を聴き状況を把握し、対応に努めております。遠方のご家族でも電話にて連絡を取り家族の想いをお聴きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、ご家族や担当のケアマネから本人の状態をお聴きし、ご本人にお会いして、状況の把握、想いを確認しながらサービスを導入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の出来ること、役割を探しながら支援しております。また、その方の希望が叶うよう、対話を大切にしたり関わりや、お客様の気持ちを理解した関わりを心がけております。		
19	(7-2)	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお手紙などで、日々の様子をお伝えし、情報の共有に努めています。面会時は、お部屋でゆっくりお過ごしいただけるように配慮しています。	家族に、担当職員のコメントを載せた広報誌を毎月送付したり、面会時や電話で利用者の日頃の暮らしぶりを伝えている。また、家族には、アセスメントシートの一部に記入してもらって情報を共有したり、利用者の状態が良くない時には事業所に泊まってもらったり、外出を希望する利用者を毎週ドライブに連れて行ってもらうなど、利用者を共に支えてもらっている。	
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、ご面会やお誕生日の外出等では、ご家族やご友人などの大切な方と会う機会を作り、関係が途切れないように努めております。	支援経過記録やセンター方式のアセスメントシート等を活用して、一人ひとりの馴染みの人や場所を把握している。その人が大切にしてきた墓参り等の習慣や年中行事などが継続できるよう支援している。また、利用者に贈り物が届いた時は送り主に連絡を入れるなど、関係が途切れないよう配慮している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の友好関係の確立されているところを大切に、居場所の配慮、食事作り、お掃除をされるなど共にできるように支援しております。		
22		○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされ、その後の対応を家族が不安を感じたりした時、病院の話し合いに同席させていただいたり、医療連携室を通じて支援したりしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを持ちながら本人の想いの把握に努めています。困難な場合は、チームでケアできる様カンファレンスシートでご家族の意向も踏まえ検討しています。	職員は、リラックスした場面で自然に出る言葉を重要と考え、把握が困難な場合でも、今どんな気持ちでいるのか、反応や表情から汲み取るようにしている。また、利用者一人ひとりの願いをかなえるために、したいこと等を聞いてその実現に努めている。	本人に関する情報は職員間で共有されているが、アセスメントには十分に反映されていない。真にその人が望む生活を支援するためにも、その人の表情や何気ない会話などを詳細に記載して課題を明らかにしていくセンター方式アセスメントの更なる活用を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問で情報を得たり、ご家族の意向もセンター方式シートを活用して情報を得ています。その情報を基にご本人の想いやご家族の想いを大切にし関わりを目指しています。	入居の際に本人・家族から聞き取りをしている。入居後も日々の関わりの中で本人に聞いたり、面会に来た家族に確認するなどして、生活歴や細かな生活習慣の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を全職員が把握して、ご本人ができる事を大切に、役割を持っていただけるようミーティングで検討し、本人が安心して過ごしていただけるように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的モニタリングやアセスメントで、気づき、ご意向からカンファレンスをし、活発な意見交換を行なっています。ご本人やご家族のご意向も大切に介護計画を作成しております。	マニュアルに沿って居室担当職員がアセスメントを行い、計画作成担当者が原案を考え、本人・家族の意見や他の職員のアイデアを取り入れて介護計画を作成している。毎日実施状況をチェックし、3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しにつなげている。定期的見直しは半年毎であるが、実施状況が不十分な場合や状態変化があった場合は随時話し合いを行って見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やちょっとした変化を個々の記録に残すように努力しています。少しでもいつもの状態と違いのある時は、ミーティングで話し合い、介護計画の見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせて、通院等の支援を行っております。身寄りのない方の入院時には必要な物を届けたり、洗濯等の支援を行なっています。また、配食サービスの配達も協力し地域の方と交流しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する保育園を始め、学校・消防などへの働きかけを行ったり、運営推進会議には地域の方に委員になっていただき連携を図っております。地域の方より畑をお借りし、野菜作りなど行い季節感を味わっていただいております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居時に同意とご納得をいただいてからかかりつけ医の変更を行っております。現在は入居者全員がかかりつけ医での受診をし受診時には、ホームでの様子を詳しくお伝えし、適切な医療を受けられるように支援しています。	本人、家族の希望を尊重したかかりつけ医に受診している。定期受診の付添いは事業所に対応しており、受診報告書を用いて家族と情報を共有している。かかりつけ医への受診の際には日々の健康観察記録等を持参して医師へ情報提供し、連携を図っている。急変や事故等の場合は、複合施設の看護師のアドバイスをもらい、適切な受診を行っている。	
31		○ 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調チェック表にバイタル測定値や特記事項を記入し、看護職の定期的にチェックしてもらいながら日々日常的な連携に努めています。事故や異常時は速やかに相談し早期に医療機関へつなげられるようにしています。		
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、面会に行き状態確認をしています。退院時の指導等も受けています。また、家族や病棟の看護師と連携を取って退院への支援をしています。		
33	(12)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の家族が不安に思われ、問われてこられます。そのため、ご本人の状態も考え十分に方向性を話あった上で、事業所でできる精一杯の支援をさせていただいております。	入居時に事業所として重度化や終末期の対応が難しいことを説明し理解を得ているが、その後も不安に思う家族とは話し合いの機会を設けている。重度化した場合は、次の生活場所が決まるまでの間、最大限可能な範囲で対応するという方針であり、本人や家族が安心できるよう適切な移行先を紹介するなどの支援を行っている。	
34	(12-2)	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受け基本を学んでおります。施設内や、ホーム内の勉強会で訓練を行い、対応を身につけるようにしています。また、AEDの操作方法も全職員が学んでいます。	年1回、救命救急法の訓練を行っており、内部研修でも感染症対応や危険予知訓練など実践力向上につながる訓練を行っている。	
35	(13)	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各棟での避難訓練を定期的に行い、各職員がスムーズに行動ができるようにしています。年1回の総合防災訓練では、地域の消防団の方にも参加して頂いております。全職員が昼夜の想定訓練をしています。	毎月避難誘導訓練を行っており、年1回は地域の方の参加も得て総合防災訓練を実施している。反省会では、サイレンの設置場所についての提案や車椅子の操作方法を教えてほしい等の意見が出されるなど具体的な改善策が上がった。また、利用者の無断外出・行方不明が発生した場合の訓練も利用者の参加を得て行われており、利用者の行動からマニュアルの見直しにつながっている。	備蓄や停電時の備え、居室内の家具を固定するなど地震対策もとられており、地元消防団との連携も進展している。しかし、当事業所は土砂災害危険区域の地すべり区域に指定されているため事業所ならではの危険予測が必要であり、また、雪害についての課題も考えられるため、事業所の特性に合わせた独自のマニュアル作成を検討されることを望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを意識しています。不必要に大きな声での会話や、カーテンや扉の開閉に配慮するなど、プライバシーにも配慮した対応を心がけています。人権の尊重できるように、法人で作った「禁句3ヶ条」を毎日唱和して意識を高めています。	定期的に接遇・倫理・個人情報保護・認知症等の内部研修を実施しており、事業所独自の倫理目標を設定して日常的に職員に意識付けを行っている。年2回、内部の「個別ケア推進委員」による監査やISO(国際標準化機構)に基づく監査も実施しており、職員の日頃の言動に注意を喚起する機会となっている。職員の声かけは優しくトイレ誘導もさりげなく行われており、居室に入る際のノックや薬に頼らないケア等、その人の尊厳やプライバシーに配慮した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけて、思いや希望を言いやすいように努力しています。特に、食べ物のご希望はお客様から出やすく、飲み物やお菓子の希望は沢山聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きとり少しでもご希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などの選択など、その人らしくいられるようにご本人にもお聞きしながら配慮しています。また、必要に応じて介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り、野菜の皮むき、食器拭きなどを声をかけながら行なっています。率先して行なったださる方もいらっしゃいます。また食事もお客様、職員と共に食べています。	献立は皆で考えており、管理栄養士の職員に確認してもらっているが、家族や近所の方から季節の食材をいただいた場合などは臨機応変に変更している。普段の食事作りはもとより、クレープやケーキなどのおやつ作りも利用者と一緒にやって楽しんでいる。時には出前を取ったり外食するなど、食への関心を引き出す取り組みがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事では、一人ひとりに合った量や形態の検討をしながら提供をしています。水分量の少ない方には、ご本人の好まれる物を提供しています。また、体調の変化もしっかりと記録し、医療につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいをお客様ご自身でできるように声をかけたり、見守りながら行なっています。磨き残しのある方には介助し。また舌の汚れのある方には舌ブラシを使用し清潔に努めています。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や排泄チェックを個別に行なっています。失禁を減らすためにトイレでの排泄を促しています。オムツ外しを心がけ、失禁パンツにパットや布パンツへの使用に努めています。	きめ細かく排泄パターンを把握し、その人特有の仕草やサインを察知して一人ひとりに応じた排泄支援を行っている。排泄の失敗があってもさり気ない対応を心がけ、「申し送りチェック表」を活用することで自信やプライドが傷つかないように配慮し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただき、自然排便ができるように、努めております。また、散歩や体操など毎日継続し、便秘予防となるような食事にも配慮しています。		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添える努力と体温や血圧が安定されている時間帯に入浴していただけるようにしています。	希望があれば毎日の入浴も可能であり、ほとんどの方が週2回以上入浴されている。身体状態に応じて2つのユニットの浴室を使い分け、安全に入浴できるよう配慮している。仲のよい利用者同士の入浴や、季節にちなんだ変わり湯など入浴が楽しめるよう工夫したり、時には近隣の温泉へ足湯にも出かけている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間眠れるように関わっています。本人の就寝時間に合わせて眠っていただいています。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、誤薬にならないように職員同士確認しながら服薬を行なっております。薬の開始、中止など変更のあるときは、理由を明確にし記録して周知。医師や看護との連携を行なっています。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、踊り、オルガン演奏、掃除、縫い物、編み物、買い物など一人ひとりの得意な事、出来ること、役割を持っていただき、職員も楽しみながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など外に出かける事を大切にしています。誕生日にはご本人の希望をお聞きし、馴染みの場所へ出かけています。	事業所内での人間関係が濃密になりがちのため、外の空気に触れることを大切にしており、日常的な散歩や毎日の買い物には欠かさず出かけている。毎月の外出行事のほかにも、利用者の個別の希望や願いに応じた外出も可能な限り支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、ご本人とご家族の意向を確認しています。事業所としては基本的にお金はお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様自ら電話をかけたいとおっしゃる方はほとんどおりません。電話がかかってこられた時にはやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目標にあげた職員が季節感を出し装飾を行っています。生活間を感じられるように季節の野菜(畑で採れたもの)を使い食事を作っています。また、熱帯魚を飼育していますがお客様が世話をし楽しんでいらっやいます。	リビングは少し広めであるが小上がりもあり、季節の花や手作り作品を飾って親しみやすく落ち着いて過ごせる雰囲気づくりをしている。感染症予防のために毎日スリッパや手すりの消毒を行うなど健康面への配慮も行き届いている。職員の動きもゆったりと穏やかであり、生活環境の一部として馴染んでい	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファなど気の合ったお客様同士お話をされ過ごされていらっやいます。天気の良い日には、陽のあたる場所でお茶のみ、日向ぼっこ、テレビをご覧になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご本人の使い慣れたもの(タンス等)や、写真や思い出の品ももち込んで頂いています。また、馴染みのある物を持ち込んでいただけるようお声もかけさせていただいています。	洋室と和室が用意されており、入居時に希望に応じて選択してもらっている。ベッドとチェストは備え付けであるが、事業所で作成した塗り絵などの作品や写真を飾ったり、思い出の品を持ち込んでもらって、安心して過ごせる環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎年、危険箇所の点検を職員で行い改善してきました。		